1-2.　景観形成基準の解説

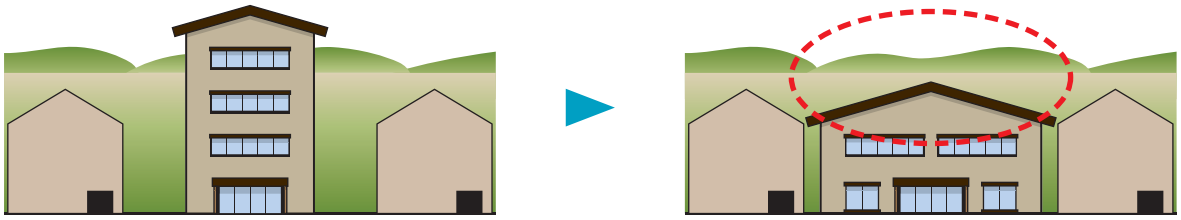
①建築物又は工作物の新築（新設）、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更

A1　規模・配置　基本的基準

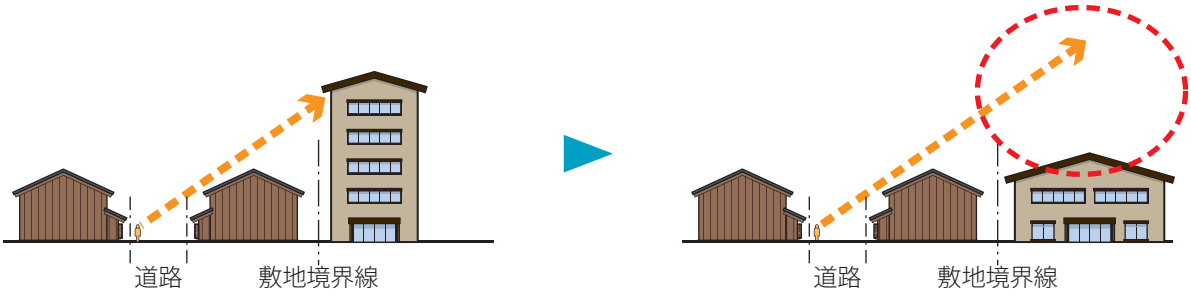
基準　○周辺の建築物等や地形との連続性及び一体性が保たれる規模・配置とすること。

■具体的な配慮の例■

○行為地の周辺に建つ建築物等や周辺の地形から突出しない規模や配置とし、周辺の景観から突出しないよう配慮する。



○周辺に歴史的まちなみや集落景観の整っている地域がある場合、できる限りまちなみから離し、低層に抑えるなど、歴史的まちなみや集落景観の保全に配慮する。



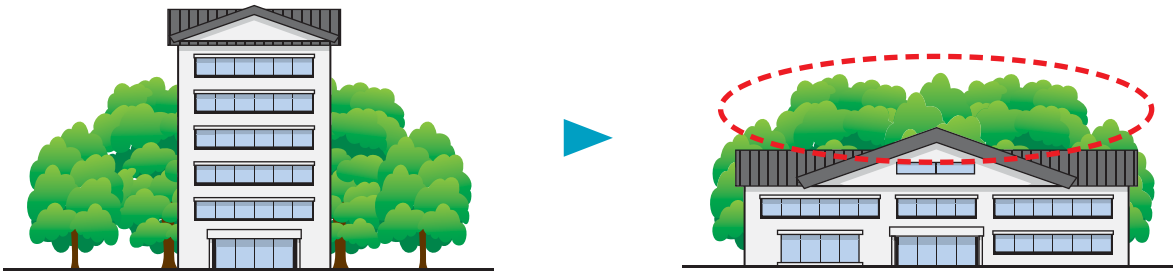
A1−1　規模・配置　基本的基準

基準

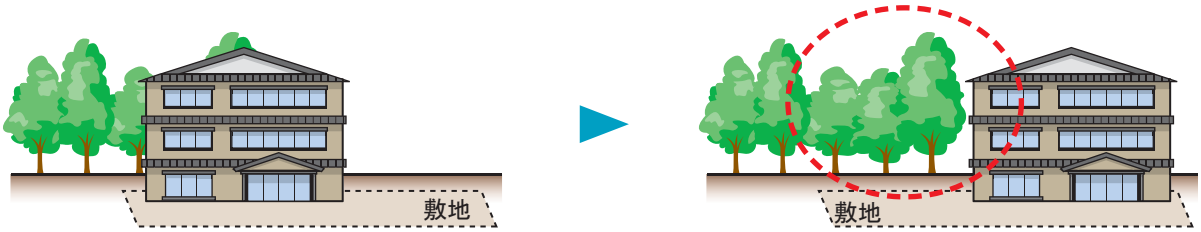
・周辺に社寺林や防風林等の樹林地等がある場合は、できる限りその高さ以内にとどめる規模となるよう配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○建築物等の高さを行為地の周辺にみられる樹林地よりも低く抑えることで、行為地周辺から樹林地への眺望が確保できるよう配慮する。



○建築物等の高さがやむを得ず周辺の樹林地より高くなる場合は、できる限り樹林地から離して建築物等を配置するなど、行為地周辺から樹林地への眺望を阻害しないよう配慮する。

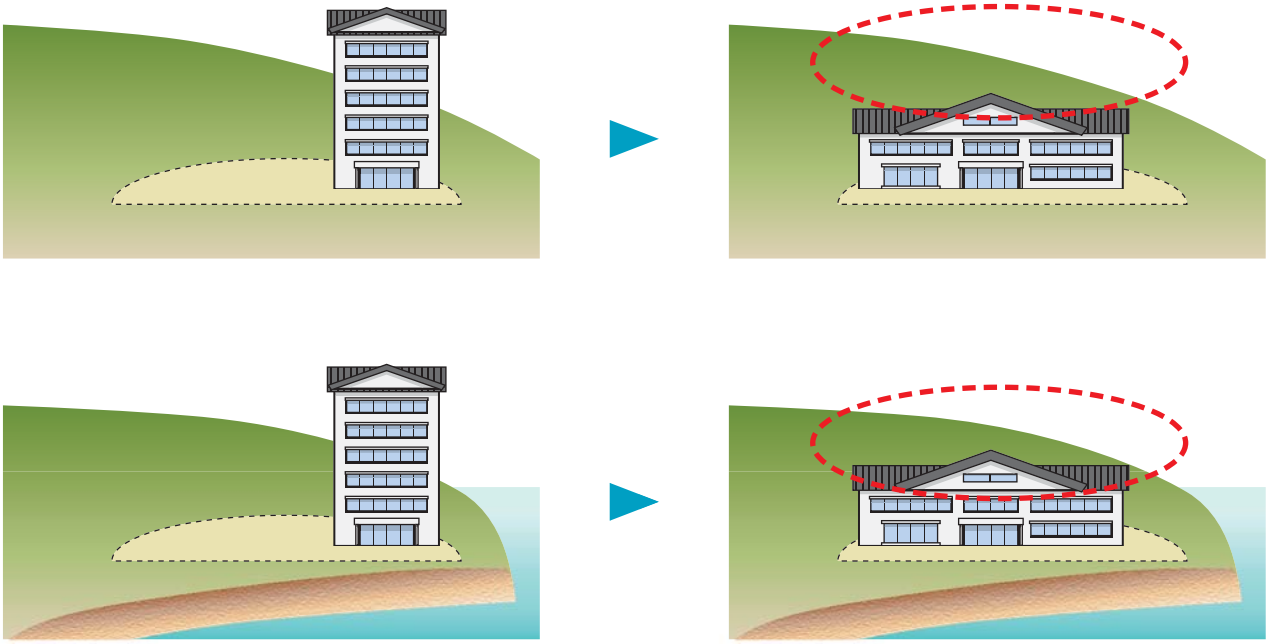


A1−2　規模・配置　基本的基準

基準　・山稜の近傍においては、できるだけ稜線を乱さない規模・配置とすること。

■具体的な配慮の例■

○建築物等の高さをできる限り低層に抑えることにより、山地や岬などの稜線を乱さないよう配慮する。



○やむを得ず建築物等の高さを低くできない場合、建築物等の配置を工夫することにより、稜線を乱さないよう配慮する。

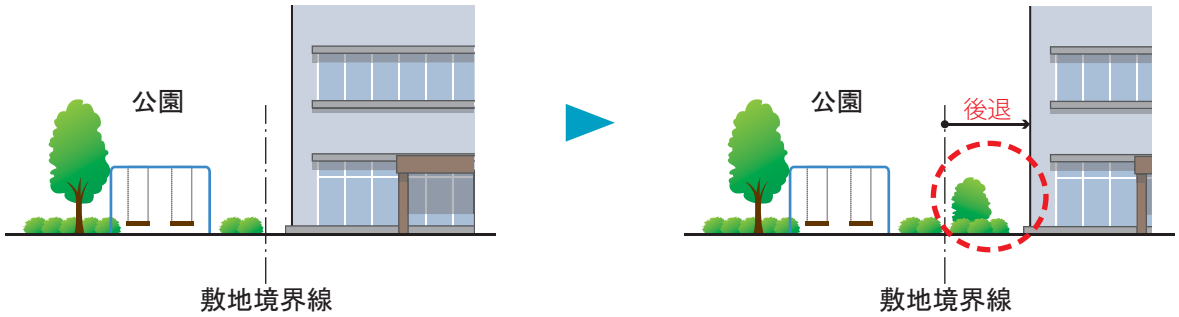
A1−3　規模・配置　基本的基準

基準

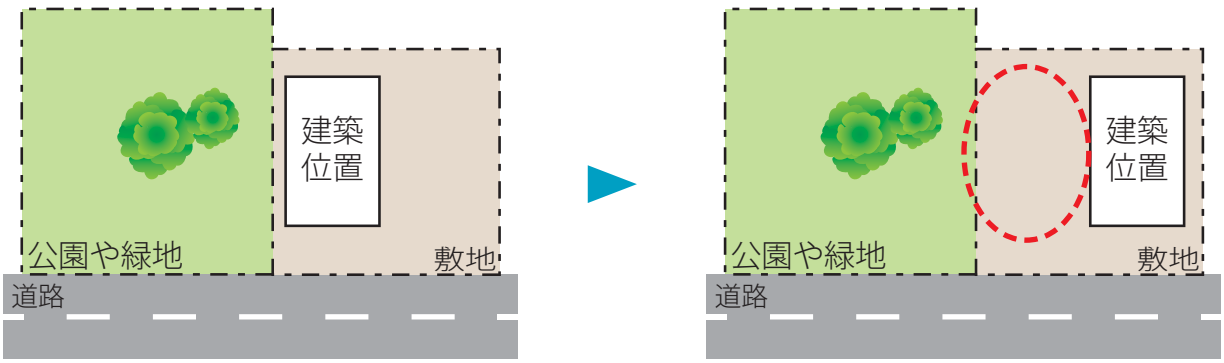
・公園や緑地等に隣接する場合は、配置を工夫し、一体的な空間が創出されるよう配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○行為地に隣接して広場や公園などの緑地がある場合、建築物等を緑地側の敷地境界線から後退させたり、後退させてできたスペースに緑地帯を配置するなど、緑地と一体的な空間の創出に配慮する。



○公園や緑地から離れた位置に建築するなど、敷地内での建築物等の配置を工夫し、公園や緑地と一体的な空間の創出に配慮する。



A 2　壁 面

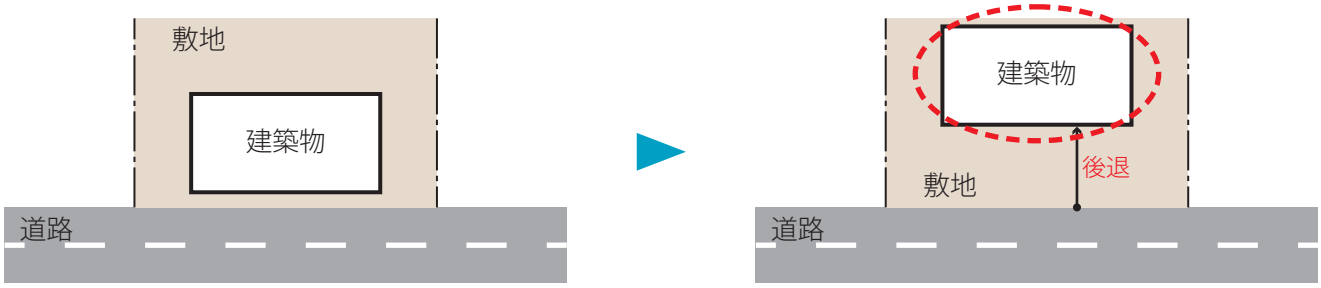
基本的基準

基準

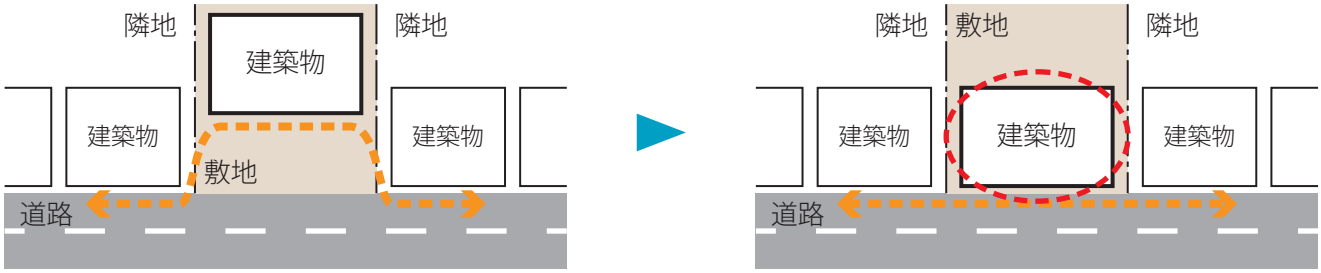
○壁面は、立地条件にあわせて、後退させるか、周辺の建築物等と位置を揃え、周辺の景観との調和に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

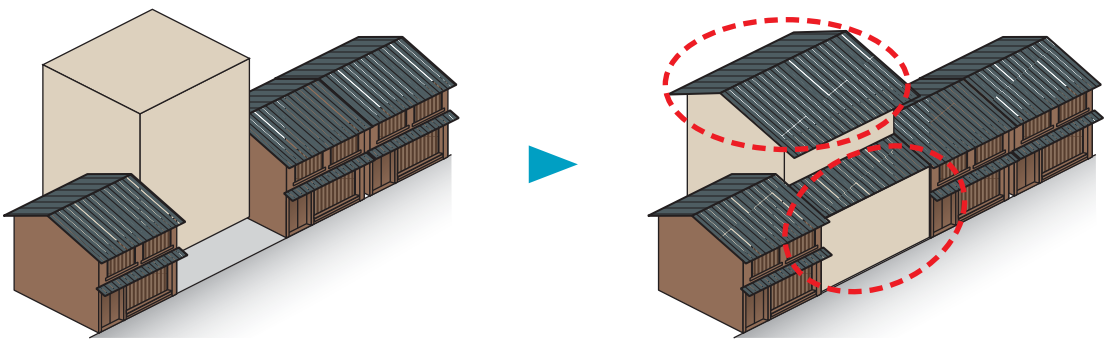
○建築物等は、周辺の状況に応じて、後退して配置するか、或いは周辺と壁面の位置を揃えて配置するものとする。
○原則として、壁面の位置はできる限り後退させ、圧迫感が生じないよう配慮する。



○周辺の壁面の位置が揃っている場合は、後退せず、周辺の建築物等と位置を揃えることで、統一した壁面線の形成に配慮する。



○周辺に歴史的まちなみや集落景観の整っている地域がある場合、低層部は周辺の建築物と壁面の位置を揃え壁面線の連続性が途切れないよう配慮するとともに、周辺の建築物より高くなる３階以上の壁面は後退させ、歴史的まちなみや集落景観の保全に配慮する。



A 2−1　壁 面

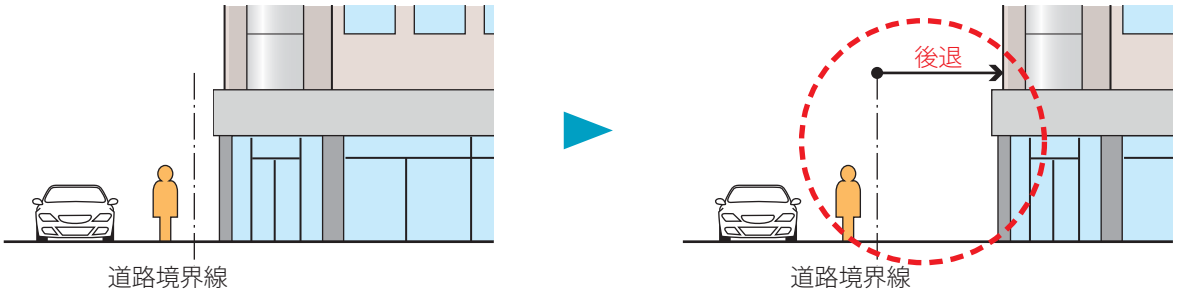
基本的基準

基準

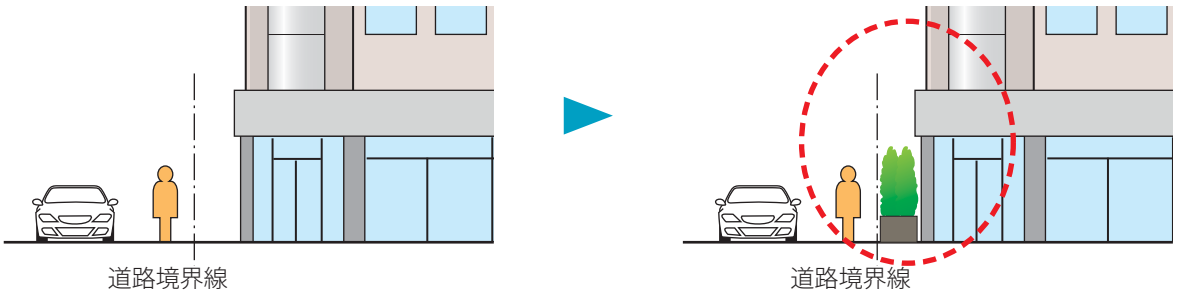
・壁面の位置は、道路からできる限り後退するか、やむを得ず後退できない場合は、歩行者等に圧迫感を感じさせないよう壁面の前面部を生垣や植栽等により修景すること。ただし、周辺の建築物等の壁面の位置が揃っている場合はこの限りではない。

■具体的な配慮の例■

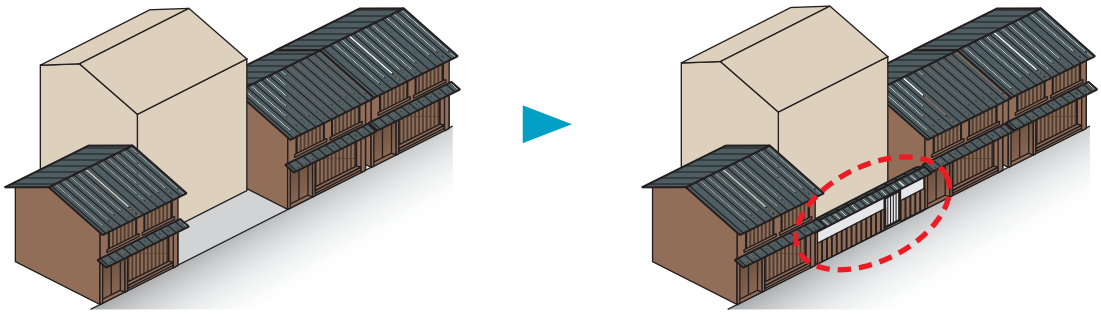
○壁面はできる限り道路から後退し、歩行者等が圧迫感を感じないよう配慮する。



○行為地の状況により、やむを得ず後退できない場合は、前面部に生垣や植栽等を設け、圧迫感を軽減するよう配慮する。



○周辺に歴史的まちなみや集落景観の整っている地域がある地域で、やむを得ず建築物等の本体を周辺のまちなみから後退させる場合、周辺の建築物の壁面の位置に合わせて門や塀、植栽等を設置することにより壁面線の連続性を確保し、歴史的まちなみや集落景観の保全に配慮する。



A 3　形態意匠　基本的基準

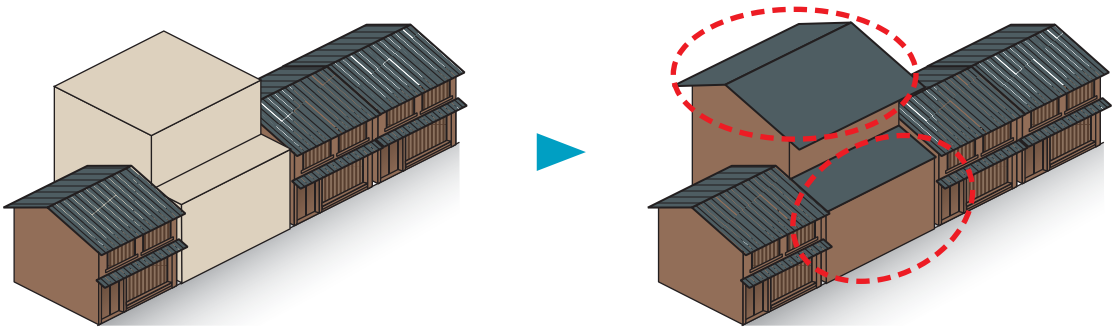
基準

○周辺の建築物等や地形との調和に配慮し、全体的にまとまりのある形態意匠とすること。

■具体的な配慮の例■

○建築物等の形態意匠は、周辺の景観から突出する過剰な装飾を避けるなど、建築物等の全体のバランスや周辺の景観との調和に配慮する。

○行為地周辺の景観の状況に応じて、和風の趣のある素材や色彩、屋根の形状とするなど、周辺のまちなみとの調和に配慮する。



A 3−1　形態意匠

基本的基準

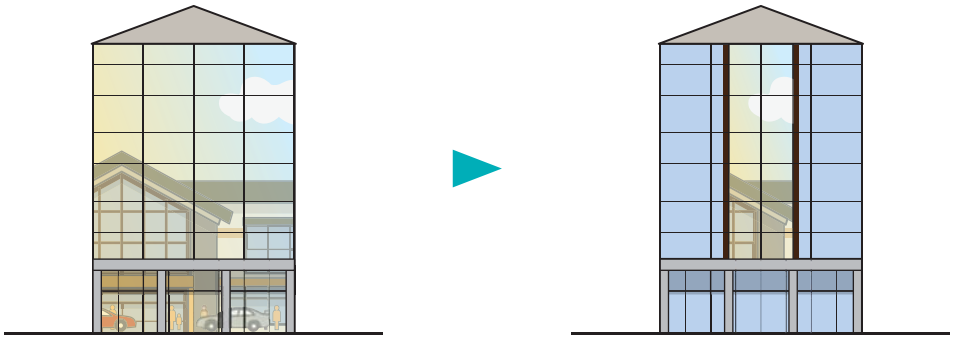
基準

・反射性のある素材を壁面の大部分や屋根に使用することは避け、周辺の景観から突出しないよう配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○金属や熱線反射ガラスなど反射性、光沢性のある素材の使用面積を抑え、歩行者等に不快感を与えないよう配慮する。

○外壁をガラス製のカーテンウォールとする場合は、行為地周辺の状況を考慮し、向きや使用部位を工夫するなど、周辺の景観から突出しないよう配慮する。



A 3−2　形態意匠

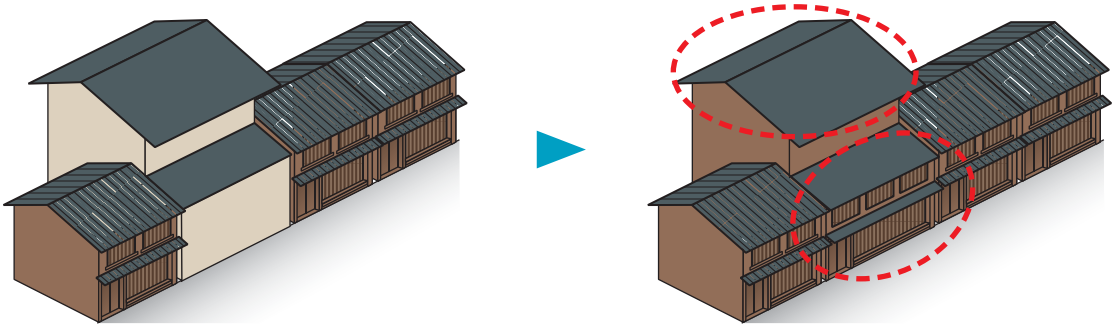
基本的基準

基準

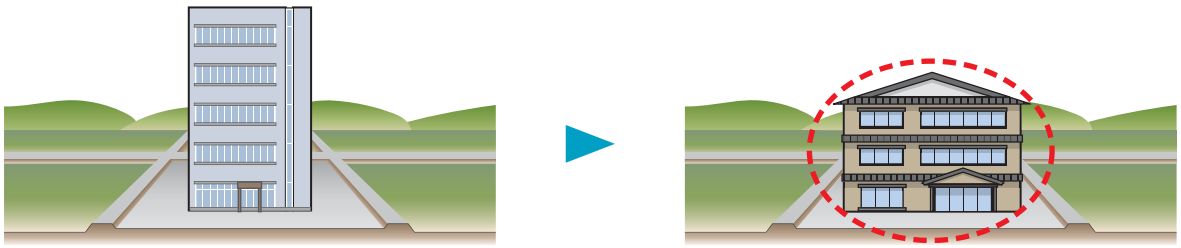
・歴史的まちなみや集落景観の整っている地域、まとまりのある農地に近接する場合は、形態意匠を工夫し、隣地や周辺の景観との調和に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○周辺に歴史的まちなみや集落景観の整っている地域がある場合、周辺にみられる軒や庇、格子、和風の瓦等の意匠を採り入れるなど、隣地や周辺の建築物との連続性を確保し、まちなみの保全に配慮する。



○周辺にまとまりのある農地がある場合、できる限り低層に抑え、和風の形態意匠を採り入れるなど、豊かな田園景観の保全に配慮する。



A4　外壁

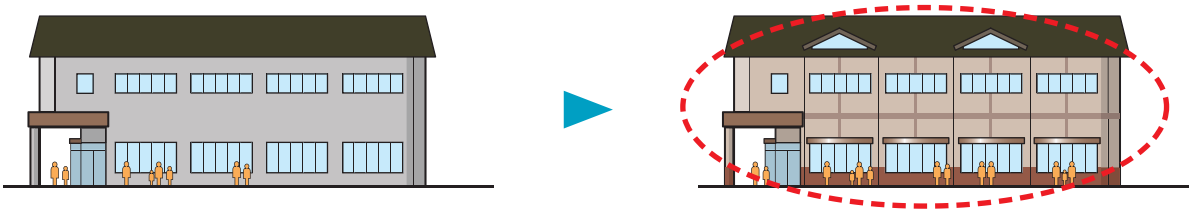
基本的基準

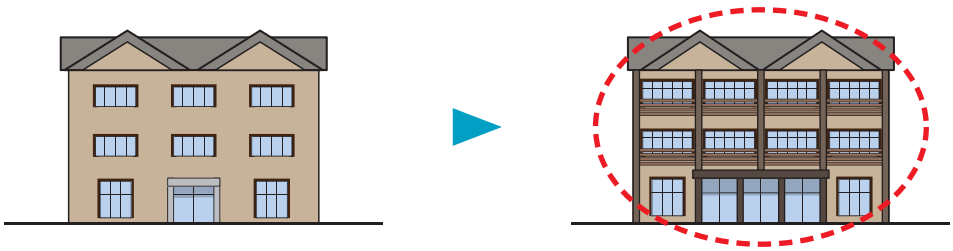
基準

○壁面の仕様を適度に分けるなど、屋根、壁面、開口部等の意匠の工夫により、圧迫感や違和感を生じないよう配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○軒や庇を設けたり、開口部を広くとるなど、壁面や屋根の仕様を適度に分けることで、歩行者等への圧迫感や威圧感を与える単調で長大な壁面を避けるよう配慮する。





A5　屋根

基本的基準

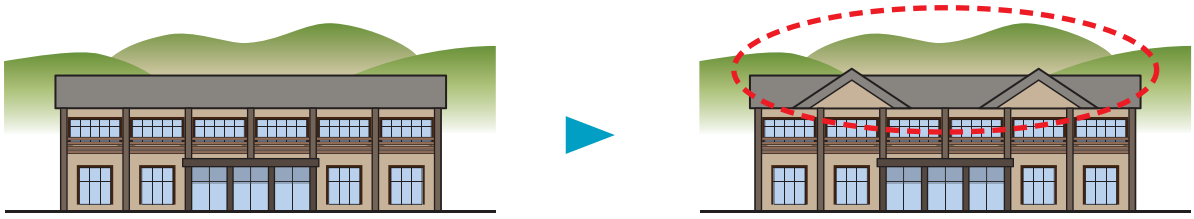
基準

○勾配屋根又はそれに類する屋根形状とするなど、周辺の地形との調和に配慮すること。ただし、屋上緑化等の環境に配慮した屋根構造となっているものはこの限りではない。

■具体的な配慮の例■

○屋根は勾配屋根を基本とし、志摩市特有の高低差のある地形と調和するよう配慮する。

○勾配の向きや屋根の形状を、周辺の建築物や地形と揃えるなど、周辺の景観との調和に配慮する。



A6　色彩　基本的基準

基準

○色彩は落ち着いたものとし、周辺の景観との調和に配慮すること。

A6-1　色彩（外壁）　基本的基準

基準

・建築物等の外壁については、派手で周囲の景観から突出しやすい高彩度色や明清色（明るく色味の強い色彩）を避けるものとし、別表の数値基準の通りとする。ただし、着色していない木材、土壁等の自然素材や無彩色のガラス等の材料によって仕上げられる部分の色彩又は見付面積の5分の1未満の範囲内でアクセント色として着色される部分の色彩（伊勢志摩国立公園の普通地域のみ）については、この限りでない。

A6-2　色彩（屋根）　基本的基準

基準

・建築物等の屋根については、派手で周囲の景観から突出しやすい高彩度色や、まちなみや自然の緑と対比の強い高明度色を避けるものとし、別表の数値基準の通りとする。

（別表）	対象	色相	明度	彩度
景観形成基準	外壁基調色	10R ～ 5Y	8以上の場合	4以下
			8未満の場合	6以下
		R、5.1Y ～ 10Y	—	4以下
		その他	—	2以下（無彩色を含む）
	屋根色	10R ～ 5Y	7以下	6以下
		R、5.1Y ～ 10Y		4以下
		その他		2以下（無彩色を含む）

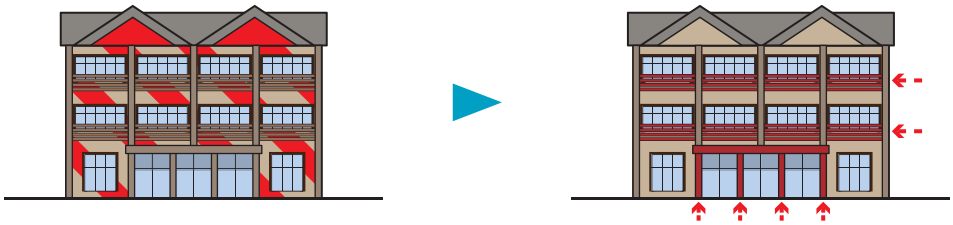
（参考）	対象	色相	明度	彩度
推奨基準	外壁基調色	5R ～ 5Y	3以上9未満	3以下（無彩色を含む）
	屋根色	5R ～ 5Y	5以下	3以下（無彩色を含む）
		5.1Y ～ 10G		2以下（無彩色を含む）

A6　色彩　基本的基準

■具体的な配慮の例■

○周辺のまちなみから突出する派手な色彩の使用は避けるとともに、伊勢志摩国立公園管理計画の「許可・届出等取扱方針」に準じて定められた推奨基準内の色彩を使用し、周辺の景観に調和するよう配慮する。

○伊勢志摩国立公園の普通地域において、見付面積の５分の１未満の範囲内でアクセント色を使用する場合、誇れる視点場等からの眺望景観を阻害しないよう配慮するとともに、建物全体の基調色や形態・意匠とのバランスに配慮する。



A 7　素 材

基本的基準

基準　○素材そのものの良さを形態意匠に生かし、周辺の景観との調和に配慮すること

■具体的な配慮の例■

○周辺の景観の状況に応じて、その地域でよく使用されている素材や、伝統的な素材、耐久性に優れた素材など、周辺の景観と調和する素材を選択し、素材そのものの良さを生かした形態意匠となるよう配慮する。

○周辺に歴史的まちなみや集落景観の整っている地域がある場合、板塀や漆喰、いぶし瓦など伝統的に使用されてきた素材を使用するなど、まちなみの保全に配慮する。

A 7−1　素 材

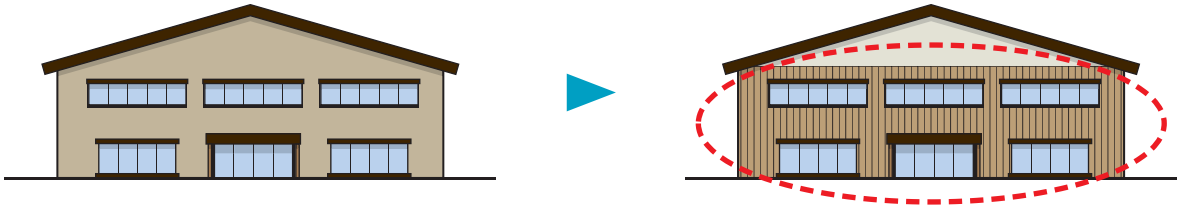
基本的基準

基準

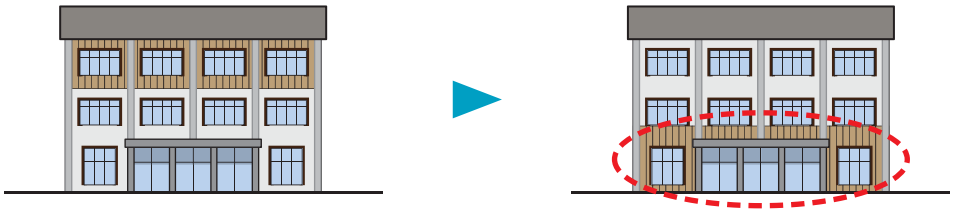
・石材など耐久性に優れた素材や、自然素材、伝統的素材などを外観に採り入れ、年数とともに周辺の景観に溶け込むよう配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○地域の風土に応じて、石材などの耐久性に優れた素材、木材などの自然素材や伝統的素材を使用するとともに、素材そのものの良さを生かした使用箇所や使用方法とすることで周辺の景観に溶け込むよう配慮する。



○石材などの耐久性に優れた素材、木材などの自然素材や伝統的素材を部分的に使用する場合は、建築物等の低層部を中心に使用し、効果的に素材の良さが生かされるよう配慮する。



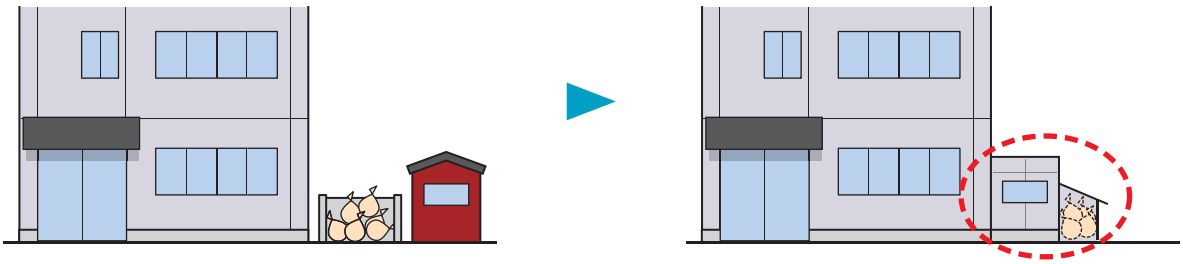
A8　附属建築物　基本的基準

基準

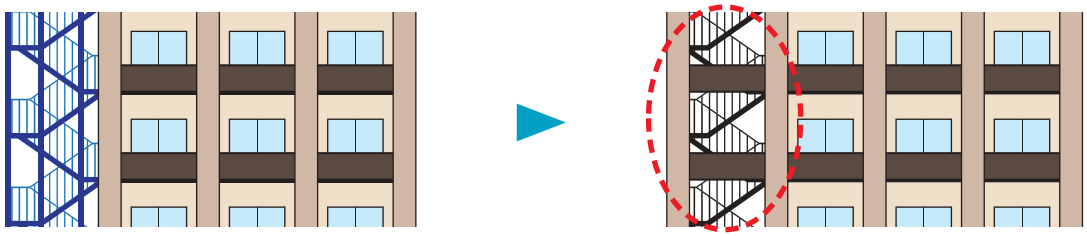
○道路や公園、誇れる視点場等の公共の場から望見できる車庫、立体駐車場、機械室等の附属建築物や屋外階段等は主体となる建築物等と調和させ、一体感のあるものとすること。

■具体的な配慮の例■

○主体となる建築物等と同じ敷地内に設ける機械室やゴミ集積場等の附属建築物がある場合、主体となる建築物等と一体感のあるものとするよう配慮する。



○屋外階段は、形状や色彩、設置場所等を工夫し、主体となる建築物等との一体感の形成や、周辺景観から突出しないよう配慮する。



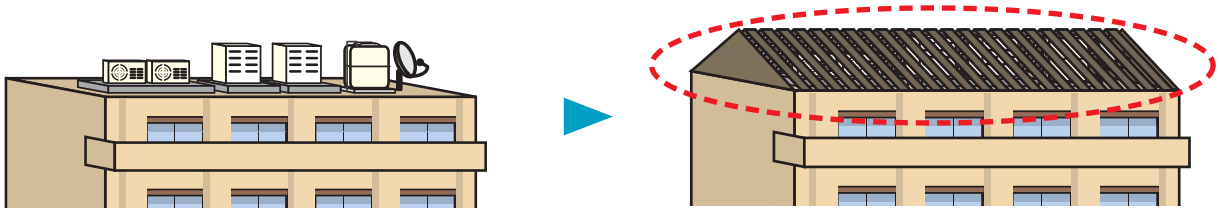
A9　附属設備　基本的基準

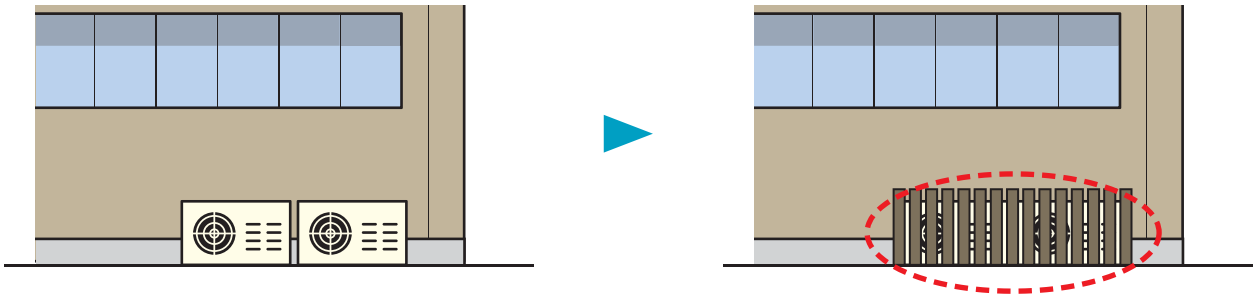
基準

○附属設備は、道路や公園、誇れる視点場等の公共の場から露出しない位置に設けるか、ルーバーで覆うなど修景を行うこと。

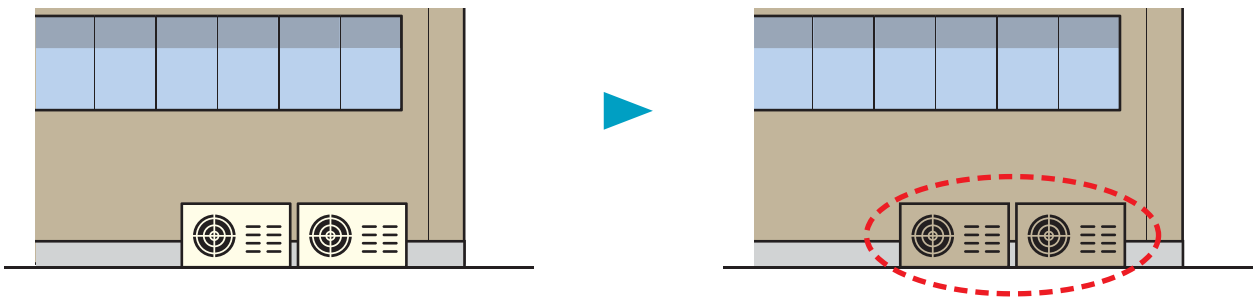
■具体的な配慮の例■

○屋上や道路等に面して設置する附属設備は、配置を工夫するか、ルーバー等で覆うことにより、公共の場から望見できないよう配慮する。





○やむを得ず附属設備が露出する場合には、外壁と同様の色彩に塗るなど、できる限り目立たないよう配慮する。



A10−1 外構

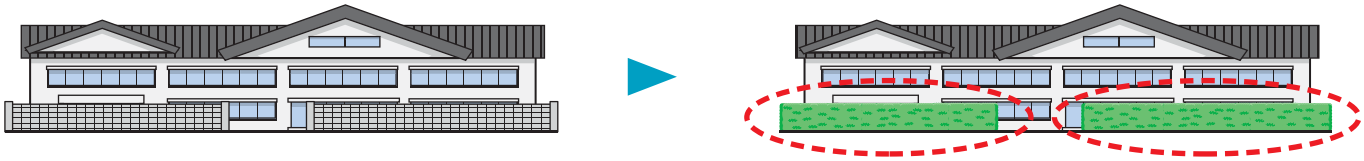
基本的基準

基準

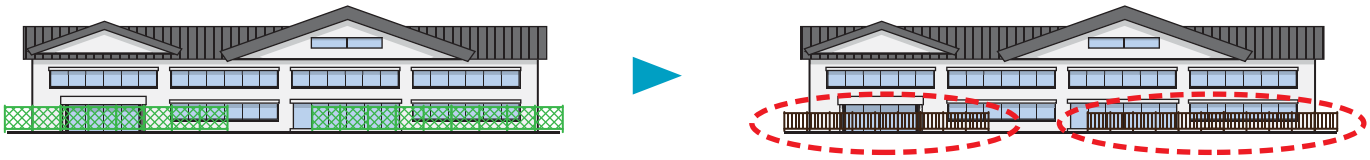
○敷地をフェンスや塀、垣等で囲う場合は、生垣や石垣等の自然素材又はこれに類する素材を使用し、歩行者等に対する圧迫感の軽減、周辺の景観との調和に配慮すること。また、透視可能な柵を設置する場合は、高さを抑え圧迫感を軽減するとともに、茶系や灰茶系、灰系の色彩を基本とすること。

■具体的な配慮の例■

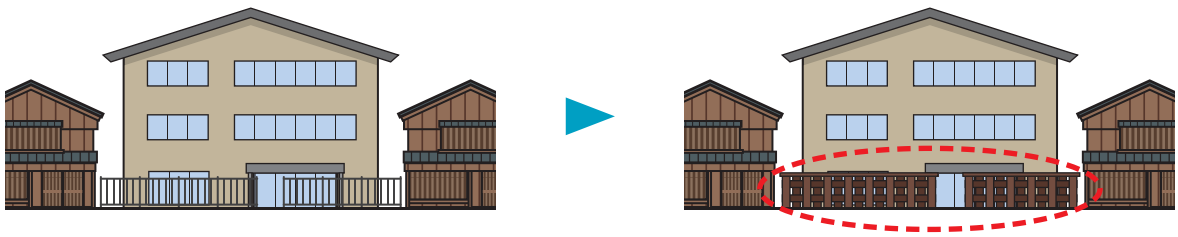
○敷地を囲う場合、無機質で、歩行者等に圧迫感を与えやすいブロック塀等は避け、生垣や石垣などの自然素材を使用し、周辺の景観に調和するよう配慮する。



○柵を設置する場合には、周辺の景観から突出しやすい緑色のネットフェンス等は避け、茶系で透視可能な柵を設置するなど、周辺の景観に調和するよう配慮する。



○歴史的まちなみや集落景観の整っている地域において、周辺の建築物の壁面の位置に合わせて門や塀を設置する場合、和風の趣のあるものとし、歴史的まちなみや集落景観の保全に配慮する。



A10−2 外構

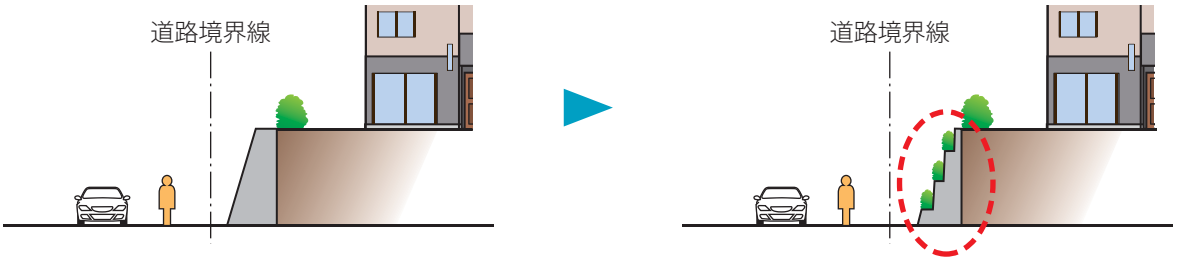
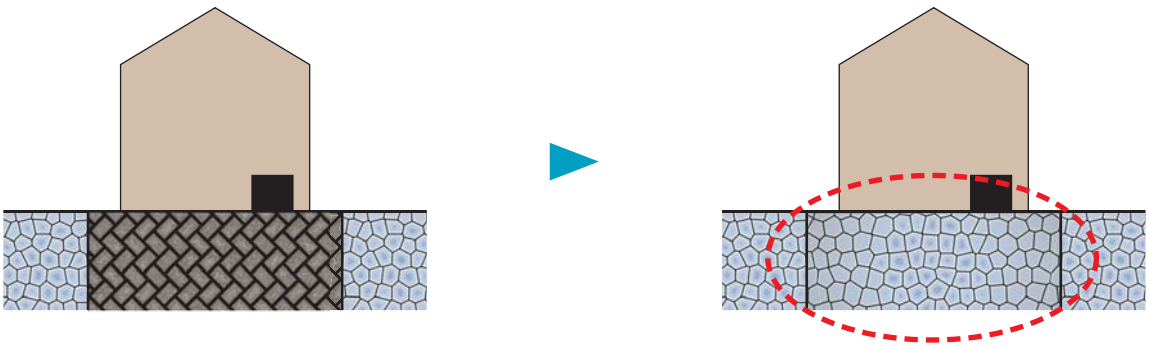
基本的基準

基準

○擁壁が生じる場合には、既存の石積みの再使用や緑化ブロック等による修景など、形態や仕上げの工夫により、単調さや圧迫感の軽減や、集落景観の継承に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○高低差のある行為地において、擁壁が生じる場合、無機質で圧迫感のある垂直な擁壁は避け、緑化ブロックを使用するなど、周辺の景観との調和に配慮する。



○行為地が特徴的な石積みの外構が残る集落に近接する場合、既存の石積みに使われている石を積み直して再使用するなど、特徴ある集落景観の継承に配慮する。